

人口減少・消防人員不足を見据えた取り組み 川之江工場で自主消防訓練を実施

服部製紙株式会社(本社：愛媛県四国中央市、代表取締役社長：大倉健司)は、2026 年 1 月 14 日(水)に、消防士不在の自主消防訓練を川之江工場にて実施しました。人口減少が進む四国中央市では、消防人員も決して豊富ではありません。こうした地域の現実を踏まえ、消防士不在を想定した避難・初期消火に加え、AED を使用した救命訓練を含む自主消防訓練を実施しました。

■ 避難訓練

充填室内で出火した想定で、火災報知器と声掛けで周りに知らせ、通報、初期消火から屋外への避難までを一連の流れで行いました。毎年消防の方が来社し監視、指導を行っていただいておりますが、前述の理由により、これまでのノウハウと消防の方との事前準備により実施ができました。



■ 消火訓練

以前は全員 1 回ずつ消火器に触れられるようにしていましたが、毎年行っているため、最近では全員ではなく、消火訓練を受けたことのない人を対象に実施しています。大きな声で「火事だ」と叫ぶことは勇気が要りますが、実際の火災の現場であればその声かけが安全性を左右することになります。皆、真剣に取り組んでいました。



■ 救命訓練

救命訓練時には消防の方にもお越しいただき、意識・呼吸の確認、胸骨圧迫、AED の使用方法等を教わりました。四国中央市では、119 番通報してから救急車が到着するまでに約 10 分を要すると言われています。その間、心肺蘇生をしなければいけないとの話を聞き、訓練にも身が入っていました。



当社では、従業員主体の「安全衛生委員会」が活発に活動しており、今回の自主訓練のように従業員一人ひとりが有事の初動を担い、命と安全を守る力の向上を図っています。品質を守る前提として、まず人の命と安全があるという考えのもと、今後も地域の現実と向き合いながら、自ら行動できる安全体制づくりを継続してまいります。

服部製紙株式会社について

1914 年(大正 3 年)創業。製紙業が地球環境に及ぼす影響の大きさを重く受け止め、環境保全を意識した商品開発をして参りました。中でも家庭排水による海洋汚濁の低減に貢献できる商品に力を入れています。自社で抄紙できる強みを活かしたキッチンペーパー、20 年以上の実績を持つ電解水商品等、オンリーワン商品を生み出し、2022 年 4 月には新工場が完成し、増産体制を整えて皆様のご注文にお応えしています。